

アーチファクトに関して

エコーの特性によるもの side lobe・reverberation・shadowing 等

心拍数の影響 房室間溝付近を走行する RCA と LCX では拍動による画像のぶれが大きい事がある。

カテーテル・ワイヤの影響 入口部付近はカテーテルの陰影が観察され、これにより入口部の狭窄や損傷を見落とす事がある。

操作に起因するもの IVUS の回転遅延・Y 軸の閉めすぎ・気泡・血球ノイズ 等

石灰化 plaque に関して

後方の無エコーを伴う、板状・斑状エコーを呈する石灰化を多く含む動脈硬化病変であり、acoustic shadow や reverberation などの音響学的なアーチファクトを伴う。

石灰化の場合には後方のエコーは突然消失するのが特徴で、attenuation とは鑑別が必要である。

石灰化 plaque を評価する場合、石灰化の分布（表在性 or 深在性）角度・全周性（napkin ring）等の表現が一般的である。

血栓に関して

エコーの輝度は血栓の性質によって異なり高エコー（古い血栓）のものから、低いエコー信号のものまで様々ある。壁在血栓の場合は可動性が認められないうえに、周囲との鑑別がより困難となることが多く、形態・臨床経過を含めた総合評価で、「血栓である可能性が高い」と判断している事が多い。

血腫に関して

中膜内に血液が貯留しているものであり、多くは冠動脈形成術におけるバルーン拡張またはステント留置後にみられ、Dissection 部（entry）から中膜が裂け、近位または遠位部に血液が貯留するトンネル状構造が出来たものである。